

ゆめみにゅーす



YUMEMI ZOO



季刊 VOL. 54
発行日 令和元年11月1日
発行責任者 夢見ヶ崎動物公園
問い合わせ 044-588-4030
飼育展示数 哺乳類:23種152点
鳥類:24種90点
爬虫類:10種76点
(令和元年10月末日現在)

ふたつの台風とその後

9月9日未明に通過した台風 15 号による被害は動物園でもさまざま、シマウマ舎のケヤキやヤギ舎グラウンドのシンジュなどは根こそぎ倒れたほか、いたるところで大きな枝が折れ、しばらく職員も造園業者さんもてんでこまいました。すべて片づく前に今度は史上最大と言われた 19 号の追い討ち。やっと少し落ち着き、ヤギ舎には倒木を加工した新しい橋を架けるなど、平和な動物公園の姿が戻ってきました。とはいえ、これだけ木がたくさんある動物公園で今後も台風が来て無傷ということはないので、次に気を張りつつ、毎回これよりひどいことになりませんように、と祈っています。



年賀状コンクールのお知らせ

動物公園の動物たちへの年賀状を募集します。いただいた年賀状は事務所にて掲示し、職員投票で選出した金賞・銀賞・銅賞の方には賞品が贈られます。

★募集期間：令和2年1月1日（水）～1月6日（月）必着

★展示期間：令和2年1月12日（日）～1月19日（日）

★あて先：〒212-0055 川崎市幸区南加瀬1-2-1

夢見ヶ崎動物公園「年賀状コンクール」あて

★注意：はがきの表面にあて先と差出人住所・氏名を記載してください（裏面を掲示するので、裏には個人情報に記載しないでください）。その他、詳しくは市政だより等に掲載予定です。



*公式フェイスブックはじめました。詳しくはこちらから。



★ピックアップ動物★

ワタボウシパンシェ

哺乳綱 サル目 オマキザル科

白いふわふわの「綿帽子」をかぶったように見える小型のサルです。野生では既に数千頭が中米コロンビアの熱帯雨林に生息しているのみで、それも年々減少しており、絶滅の危険が最も高い動物種のひとつです。数頭～十数頭の群れを形成し、果実や虫などを食べます。

夢見ヶ崎動物公園からパンシェがいなくなり、しばらく空き部屋になっていたところに、京都大学霊長類研究所から1頭のメスを迎え入れました。最初は緊張していましたが、徐々に慣れてきて、部屋を清掃しているといつの間にかかなりの近距離から見つめられていることも…。今後はお嬢さんも迎え、この貴重な動物を繁殖させたいと考えているところです。

寒さに弱いのでこれからの季節はあまり外に出ることはありませんが、外がほの暗くなってきた時間帯は明るい室内から外を眺めるパンシェが見える可能性が高いのでお勧めです。

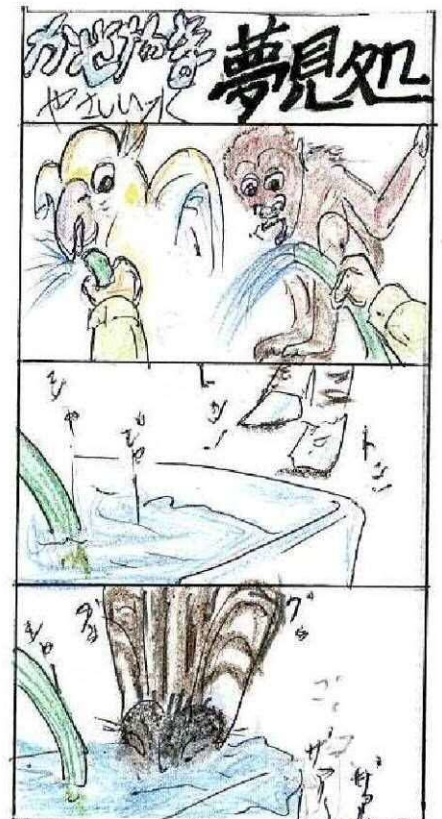


獣医の日記

しばしば話題にしてきたブラウンキツネザルのマロちゃん、満33歳と高齢で白内障のため展示には出ておりませんが、病院でぬくぬくとご隠居ライフを送っています。

大きな病気もなく過ごしてきたマロの目に異変が起きたのは9月の半ばでした。ずっと白内障で真っ白だったマロの瞳が、片方真っ黒になっていたのです。見た目だけでいえば、「正常」な目にみえるのです。しかし白内障は自然には治らない病気です。白く濁った目のレンズが、目の中で壊れたり、あるべき場所から外れてしまったりした可能性が考えられました。それだけであればよかったのですが、その後目に炎症を起こしてしまい、注射や目薬での治療が始まりました。悩ましいのが、目薬を差した後、ひやっとして不快なのでしょう、自分の手で目をこすってしまうのです。当然言い聞かせてやめるものでもありません…。投薬が功を奏して一度はきれいに治ったように見えたものの、またぶり返してしまい、まだ闘いは続いています。

…が、ピリピリしているのは獣医だけのようで、当人は発症当時こそ目を痛がって元気がなかったものの、最近はケロッとして好物のバナナを平らげ、普段通り穏やかに過ごしています。野生動物は不調を隠すものなので、何でもないようにふるまう動物の異常には敏感であらねばならないと肝に銘じているのですが、この達観したようなおばあちゃんの態度をみていると、病気って何だろう、と根本的なことを考えてしまうこともあります…。



★動物たちの主な移動(令和元年8月1日～令和元年10月31日)★

ワタボウシパンシェ(♀1搬入:京都大学霊長類研究所)、マーコール(♀2死亡)、ケヅメリクガメ(♂1死亡)、ニホンキジ(♀1死亡)